

■「みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン2」令和7年度の主な取組み一覧 市社協・市

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
1	「地域社会と多様性講座」 多様な個性に対し配慮と尊重の意識を持ち、正しい知識の学びと自分の価値観や意識を見つめるきっかけを作る目的に、4つのテーマ(多文化共生/子どもの貧困/更生保護/障がい)を取り上げた講座を開催しました。 (受講者 延べ48名)	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進	○	
2	出前講座の実施 地域、学校等の福祉意識の醸成やボランティア理念の啓発普及を目的に、ボランティア等の協力を得ながら当事者講話や各種福祉体験を行う出前型の講座を開催しました。(令和7年度 依頼件数 計31件 参加者数 延べ2,559名〈令和6年度 24件 延べ1,962名〉)	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進	○	
3	福祉教育研修会の開催 福祉教育に携わる方の交流と連携、共通理解を図るため、市内小中学校教員、福祉教育協力団体(ボランティア・当事者)、地区社協、地区民児協等を対象に研修会を開催しました。(内容: 知的障害と自閉症を理解するプログラム「障害のある子って、どんな気持ち? ~見て、聞いて、体験して、知ろう! ~」、講師: 茅ヶ崎手をつなぐ育成会、茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会 参加者 15名 10/31)	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進	○	
4	福祉教育プログラム集、福祉教育パンフレットの周知 「福祉教育パンフレット」を市社協の各種講座、市内各学校、関係機関及び地区社協等へ配布・周知し、福祉教育研修会、学校及び地域での福祉教育に活用しました。	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進	○	
5	夏休みおやこ手話教室の開催 手話を通して福祉の心を育てること、聴覚障害者との交流や手話を学ぶことによって「耳が聞こえないこと」や「手話は聴覚障害者とのコミュニケーションの1つである」ということを理解するために、手話サークル茅の会の協力により小学生親子を対象に5日間の連続講座を開催しました。(7/28~8/1 令和7年度 受講者数20.2名(平均値)〈令和6年度 26.6名〉)	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進	○	
6	障害者週間街頭キャンペーンの開催 国際障害者デーであり障害者基本法の公布日である12月3日から障害者の日である9日までの「障害者週間」にあたり、障害者の自立と社会参加の促進と住民の障害者への理解を深めるため、市社協・障害者及び関係機関の協働により街頭キャンペーンを行いました。(協力: 市内障害者施設)	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進		

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
7	ミニデイ・サロンの立ち上げ支援 「身近な居場所づくり推進」の実現に向け、地区社協が中心となって立ち上げ・運営するミニデイやサロン活動に助成しました。開催回数に応じて助成額を設定するとともに、市受託金と併せて新規立ち上げの助成を行い、新規立ち上げが進むよう支援しました。（令和7年度 新規17か所、継続90か所、計107か所〈令和6年度 新規3か所、継続93か所、計96か所〉）	市社協	○		
8	「ボランティア情報紙」の発行 ボランティアニーズの周知とボランティアによる支援を呼びかけるために、募集情報紙を発行し個人登録ボランティアや市内公共施設、企業、学校及び施設等へ配布しました。「OPEN THE DOOR」（1回1,000部、月1回・計12回発行）「OPEN THE DOOR～施設編～」（1回1,000部、季刊・計4回発行）令和7年度は冊子「ボランティア活動のしおり」（2,000部）を発行し、市民や各種会議・講座等参加者、関係機関・団体に配布しました。	市社協		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	
9	地域福祉活動等の周知 市社協の活動を広く市民に周知するため、市社協広報紙「社協ちがさき」を発行し、自治会を通じて全戸配布しました。（年3回） 市社協ホームページを逐次更新し、令和6年度事業報告書・決算書、ボランティア情報や福祉サービス情報、講座の開催などについて、地域住民や関係機関・団体に情報提供を行いました。 市社協公式LINEの運用を行い、ボランティア情報や講座等の情報を配信したほか、ボランティアグループの活動紹介を行いました。（令和7年度 登録 1,147名〈令和6年度 登録 1,029名〉、配信 3～5回/月） 市公式ホームページ、LINE、地域福祉課公式Instagramで情報発信を行いました。（Instagram投稿数 46件）	市社協 市	○	○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	
10	「ボランティアまつり・福祉バザー」の開催 市社協と茅ヶ崎ボランティア連絡会と共催で、「たんぼぼの綿毛のようにもっとボランティア」をテーマにボランティアまつり福祉バザーを開催しました。（内容：福祉バザー、ボランティア相談、点字体験、車いす体験、マッサージ、アトラクション（マジックショー、手話ダンス、紙芝居））（令和7年度 参加者 488名〈令和6年度 参加者 540名〉）	市社協/ 茅ヶ崎ボ ランティア 連絡会		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	
11	「社会福祉大会」の開催 市民参加を基本とした社会福祉の啓発を目的に、第46回茅ヶ崎市社会福祉大会を開催し、社会福祉に貢献した方々への表彰式典と成年後見制度をテーマとした講演を行いました。（令和7年度 参加者 192名〈令和6年度 180名〉）	市社協		○	○

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
12	市民向けデジタルデザインツールの研修 地域福祉活動に携わる方を対象に、市広報シティプロモーション課の職員を講師として、デジタルデザインツール「Canva」について学ぶ「すてきな広報誌づくりワークショップ」を開催しました。	市		○	
13	中学生職業体験の受け入れ 市地域福祉課が職場体験で受け入れた中学生に、地域福祉課の相談支援包括化推進員の仕事を紹介するインタビュー記事の作成をしていただき、Instagramで発信しました。	市		○	
14	オフィスちゃぼの開催 市社協の実施する事業利用者で、社会とのつながりが少なく家に閉じこもりがちの方に対して、社協事業に関する軽作業のボランティアをお願いし、社会参加機会を作る取り組みをしました。	市社協	○	○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	
15	「ボランティア大学」の開催 新たな活動参加者の発掘や育成と、ボランティア活動の基本的理解の促進、基本的知識の普及や啓発を目的に、初心者を対象にして「茅ヶ崎ボランティア連絡会」との共催により開催しました。（令和7年度 申込数 58名〈令和6年度 59名〉）	市社協		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	
16	「ボランティア入門講座」 ボランティア活動に興味のある方、その他参加を希望される方を対象に、活動に参加するきっかけづくり及び地域福祉活動の周知を目的として開催しました。令和7年度は送迎ボランティアを対象として、活動の担い手発掘及び活動している方のモチベーション向上を目的に開催しました。（令和7年度 参加者 8名 3/23〈令和6年度 28名〉）	市社協		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	
17	「ユースボランティア茅ヶ崎」の開催 市社協と市民活動サポートセンターとの共催。中学生、高校生、専門学校・短大・大学生を対象に、青少年のボランティア活動を通して一人ひとりの興味・関心から出発して、自分なりの選択ができる青少年の育成を目指して開催しました。申込が非常に多くあったため、定員を拡大して受け付けました。（令和7年度 オリエンテーション受講者 118名〈令和6年度 120名〉）	市社協/ 市民活動サポートセンター		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
18	「地域デビュー講座～定年後・子育て後など、暮らしの節目に考える地域福祉活動～」 地域福祉活動の担い手の裾野を広げることを目的に、大学教授による講話や、地域で活動するボランティアによる体験談を通じて、地域活動に一步踏み出すきっかけとなる講座を開催しました。（受講者 8名のうち、2名が市社協の個人ボランティア登録を行い、地区ボランティアセンターへの登録を検討される方も生まれました。）	市社協		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	○
19	支援関係者への研修 『もしかして、あの子も?』～子どもが抱える“ケア”に気づくために～ 地区ボランティアセンターや地域福祉活動者がヤングケアラーの問題を知り、活動の中で視野を広げられることを目指した講座を実施しました。（受講者 38名）	市社協		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	○
20	「地区ボランティアセンター連絡会」 市内の地区ボランティアセンターの活動推進の支援として、情報交換や共通課題の共有・学習等を通じ交流する場として連絡会を次のとおり開催しました。 第1回連絡会(7/10)： 令和6年度の各地区活動状況の共有、各地区ボランティアセンター間の情報交換、安全安心チェックリストの確認、地区ボランティアセンターの安定的な運営に向けた意見交換を行いました。また、サポーター交流会の企画に関する課題や、ボランティアセンター拠点の有効活用事例、子どもの見守り活動に係る内規整備等について等、各地区の困りごとや関心事項を共有し、今後の運営や取組みの参考となる情報の整理を行いました。 第 2回連絡会(2/5)： 担い手不足への対応に向け、地域の社会資源との連携という視点を共有するため、シルバー人材センターに関する勉強会・意見交換を行いました。あわせて、地区ボランティアセンター間の情報交換を通じて、小学校との連携やボランティアイベント、ボランティアポイント等の取組事例を共有し、各地区における今後の活動の参考となるよう取り組みました。	市社協		○	
21	地区社協連絡協議会事業の支援 地区社協連絡協議会の事務局として、事業や研修等の企画・実施への支援・調整協力、市や市社協の福祉推進にかかる情報提供等を行い、13地区社協相互の交流や課題共有を通じて各地区の福祉活動が活発化し、地区の福祉が向上することを支援しました。（会議等13回、行政との懇談会（8/4）、研修会（11/17）、視察研修会（2/16））	市社協		○	

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
22	「地区支援ネットワーク会議」の開催 相談事例や地区内情報の共有を通じて地区課題を捉え、地域づくりにつなげることを目的に、全地区で地区支援ネットワーク会議を開催し、その運営を支援しました。あわせて、地区内のチーム形態を活かしたつながりづくりや、関係団体の参加・連携による取組みが進むよう、活動・企画に対する助言や団体間の調整等の支援を行いました。（令和7年度会議開催数 13地区 計140回、共有事例（実人数）計145人〈うち新規計101人〉） ○こども食堂との連携 こども食堂に対する助成金の活用支援を通じて、市内13か所のこども食堂とのネットワークづくりに取り組み、ネットワーク会議において多様な主体との連携について協議できる体制づくりを進めました。また、生活協同組合ユーコープからの寄付金を市内13のこども食堂と、1つの学習支援団体に配分する調整を行いました。 ○「不登校・子どもの居場所ネットワークちがさき」との連携 「不登校・子どもの居場所ネットワークちがさき」との繋がり維持と、活動支援に取り組みました。 ○子育てサロンとのネットワークづくり セブン・イレブン・ジャパンからの寄付の活用を通じて、市内15か所の子育てサロンを訪問しネットワークづくりに取り組むことで、ネットワーク会議において子育てサロンの活動状況や抱える課題について協議ができるよう体制づくりを進めました。 ○買物支援(移動販売の誘致) 株式会社マルエツが開始する移動販売の実施場所選定に関する協議において、ネットワーク会議の場を活用することで、地域の方々が地区内の買い物・移動支援ニーズを意識し、その把握につながるきっかけとしました。	市社協/ 各地区	○	○	○ (♥) 相談支援 体制・連 携の強化

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
23	地区懇談会の開催 各地区で、住民が参加し地区課題等についての共有や意見交換、理解をすすめる機会として、地区懇談会の開催を支援しました。（令和7年度実施状況 9地区 13回）各地区のテーマ等は次のとおりです。 茅ヶ崎（まち歩きから地域の福祉を考える 3/14 39名） 鶴嶺東（高齢者とつながる地域づくり 12/13 50名程） 鶴嶺西（知的障がいのある方の理解について 3/26 28名）☑ 湘南（地区社協が担うべき事業について 2/21 50名程） 湘北（「みんなのまつり」の企画・開催 7/10、10/15、1/28、2/26、3/20） 小和田（「みんなで学ぼう認知症講座」の開催 3/14 55名） 松浪（担い手不足について考えよう 2/21 51名）☑ 浜須賀（地域福祉活動における課題の解決について 1/31 ☑名）☑ 小出（「自分で終える終活セミナー」の開催(福祉講座パート2を兼ねる) 3/21 33名）☑ 開催なし：茅ヶ崎南、南湖、海岸、松林	市社協/ 各地区社会福祉協議会			○ (♥) 相談支援体制・連携の強化
24	「ちがさきの地域福祉プラン3」策定に向けた意見交換会(令和6年度実施)の報告 令和6年度の各地区懇談会(地域福祉プラン改定に向けた意見聴取)において参加者から挙げられた意見の集計と分析を地区毎に実施し、地区社協会議等の中でCSWがフィードバックする取り組みを行いました。	市社協			○
25	多様な主体の連携による地域福祉活動の推進 市内13地区に配置された市社協のコミュニティーソーシャルワーカーや市の相談支援包括化推進員が、地域の社会資源を幅広く把握し、多様な取組みのコーディネートを行い、地域福祉活動の活性化を図りました。（具体的な取組みは資料1-③を参照）	市 市社協		○ (♥) 地域参加の仕組み・きっかけづくり	○ (♥) 相談支援体制・連携の強化
26	「フードドライブ活動」 株式会社マルエツと連携し「フードドライブ活動」を行った。マルエツBLiX茅ヶ崎店と茅ヶ崎店では、店舗に「食品寄付ボックス」を設け、ご家庭で使い切れない食品の回収を行っています。寄付された食品は、市社協を通して市内の子ども食堂や地域のサロン活動利用者など、地域で必要としている方々にお渡しいたします。	市社協		○	○ (♥) 相談支援体制・連携の強化

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
27	移動支援の取組みの実施 各地区における福祉まつり等へのイベントへ参加するための移動手段の課題に対し、地域の福祉施設のマッチングによる送迎を実現し、相互に協力し合える関係づくりに取り組みました。令和7年度に新たに協力事業者との連携が実現した地区は、次のとおりです。 ・茅ヶ崎南地区（ニッショウグッドウォーク） ・湘南地区（湘南ベルサイド） ・小出地区（ふれあいの森、ニッショウスマイルステーション大庭、リフシア矢畑） ・南湖地区（ふれあいの麗寿）	市社協		○	○ (♥) 相談支援体制・連携の強化
28	小学校の総合学習と地区の取組みのマッチング 梅田小学校5年生の総合学習の取り組みと、地区社協・地区ボランティアセンターのマッチングにより、「福祉教育」の要素を通じた他機関/他団体との関係づくりに取り組みました。また、地区ボランティアセンター連絡会での共有により、他地区への活動の波及を狙いました。	市社協	○ (♥) 多様性への理解の促進	○	○ (♥) 相談支援体制・連携の強化
29	講座「あなたも知らないかもしれない コミュニティソーシャルワーカーの世界」への講師派遣 地域包括支援センターと障害相談支援事業所が主催する研修会にて講師を行い、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の活動紹介を通じて地区ボランティアセンターの活動や地区支援ネットワーク会議での取組みについて発信を行いました。	市社協			○
30	地域共生社会の実現に向けた研修 庁内各部署と関係機関の連携・協働をより一層推進し、住民一人ひとりが安心して暮らせる地域社会を築き上げることを目指した研修を開催しました（講師：同志社大学社会学部社会福祉学科 永田祐教授）。 第1回(8/28) 地域共生社会の理念と分野横断型の実践について（講義とグループワーク）（参加者：市職員、市社協職員、地域包括支援センター職員ほか36名） 第2回(2/10) 地域共生社会実現に向けた行政内の連携・協働について（講演）（参加者：市管理監督職66名）	市			○ (♥) 相談支援体制・連携の強化
31	「令和7年度重層的支援体制整備事業に関わる新人向け職員研修」の実施 包括的相談支援事業を担ううえで必要な知識を習得し、相談業務を担う職員が適切に他機関との連携ができるように研修を開催しました。（講師：各分野の相談支援機関の担当職員） （7/31、8/7 内容：包括的相談支援事業基礎研修～適切な施策につなげることができるように知っておこう～、参加者：市職員、市社協職員、地域包括支援センター、相談支援事業所職員〈第1回 71名、第2回 84名〉）	市			○ (♥) 相談支援体制・連携の強化

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
32	個別ケースの支援 市や市社協で支援するケースで、地域とのつながりや地域での活動を希望する方に対し、つなぎ支援を行いました。	市 市社協			○ (♥) 相談支援 体制・連 携の強化
33	福祉総合相談 相談支援包括化推進員による、関係機関等と連携した包括的な相談支援等を実施しました。令和7年度 相談対象者数（実人数）494人（令和6年度 600人）	市			○ (♥) 相談支援 体制・連 携の強化
34	茅ヶ崎市成年後見支援センターにおける成年後見制度の利用促進【理解促進・啓発活動】 ○市民向け講演会 「『親のこと、子どものこと、自分のこと』～『困った』の前に知っておきたい成年後見制度の基礎知識」（9/15 参加者 87名）（令和6年度 参加者 94名） ○出張ミニ講座 一般市民向け、支援者向け、家族向けに、成年後見制度の周知啓発を図るミニ講座を開催しました。（全20回開催、延べ380名参加）（令和6年度 全7回開催、延べ約200名参加） 【相談対応】 ・相談対象者（実人数）337名（うち新規 267人） （令和6年度 345名（うち新規272名）） ・延べ対応件数 1,638件（令和6年度 1,545件） ・来所相談 320件、電話相談 366件、多機関との調整 966件 ・訪問相談 86件 延べ対応件数の5%程度（令和6年度 6%程度） 【ケースマネジメント】 ・多機関等とのケース会議 56件（うちセンター主催24件） （令和6年度 42件） 【関係機関等の参加による勉強会】 ○成年後見支援ネットワーク勉強会 （第1回 6/27 参加者46名、第2回 12/16 参加者35名） 【制度の利用促進】 ・申立書作成支援 23件（令和6年度 25件） ・候補者の推薦の調整 32件（令和6年度 15件） ・市長申立 8件（令和6年度 6件）	市			○ (♥) 成年後見 制度の普 及・利用 促進

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
35	財産保全管理事業(日常生活自立支援事業(茅ヶ崎あんしんセンター)) 県社協の委託により、日常生活において福祉サービスの十分な利用や、財産の管理・保全が困難な障害者や高齢者等に対して、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス・書類等預りサービスを行い、地域での自立した生活を送れるよう、福祉サービスの適切な利用のための一連の援助を一体的に行いました。 ・相談援助件数 3,808件（令和6年度3,528件） ・契約件数 62件（令和6年度 61件） うち新規契約 16件（令和6年度 13件） ・解約件数 15件（令和6年度 15件） ・継続件数 47件（令和6年度 46件） うち生活保護 29件（令和6年度 25件）	市社協			○ (♥) 成年後見制度の普及・利用促進
36	法人後見事業 市内在住者で、かつ本人に関われる親族がいない、資力がない、総合的な支援が必要（複合的な問題を抱える世帯の者、地域でのネットワークによる見守りが必要な者等）という理由で他の候補者が望めない身上監護を中心とした支援を必要とする者に対して、法人で法定後見制度による支援を行いました。 ・受任件数 法定後見7件（前年度から継続6件、新規1件） （類型：後見5件、保佐2件 内訳：高齢1件、障害6件） 終了件数 1件（市民後見人への移行）	市社協			○ (♥) 成年後見制度の普及・利用促進
37	弁護士による成年後見相談 市内在住者や市内在住者を支援する事業所等を対象に、成年後見制度、相続・遺言・信託等について、弁護士による相談会を実施しました。 ・偶数月第1水曜日 13:15～16:55（40分／名）計5回	市社協			○ (♥) 成年後見制度の普及・利用促進
38	「市民後見人」の養成 本人の権利と暮らしを擁護する成年後見の担い手として、地域で暮らすことから得られる経験を活かした市民後見人を養成するとともに、その活動を支援するための事業を実施しました。 ○市民後見人養成講座実践研修 神奈川県が業務委託し神奈川県社会福祉協議会が実施した市民後見人養成講座基礎研修に引き続き、市民後見人養成講座実践研修を令和7年10月8日から12月17日の間に、全8回開催しました。令和8年1月22日に修了認定審査会を開催し7名を修了認定としました。 ○修了認定者のフォローアップ 第5期茅ヶ崎市市民後見人養成講座実践研修修了認定者7名について新たに名簿登載し、計27名の名簿登載となりました（累計31名）。法人後見サポーター（兼生活支援員）のうち9名が、日常生活自立支援事業及び法人後見のケースにあたり、実務研修を実施しました。	市社協市			○ (♥) 成年後見制度の普及・利用促進

No.	主な取組み	主な主体	基本目標(♥=重点)		
			つながる	活動する	支え合う
39	成年後見相談等に関する周知・啓発(市社協) パンフレットの作成と配布及び社協ちがさき(7月・11月・3月発行)にて成年後見相談等の記事を掲載した他、市社協ホームページ及びSNS(LINE公式アカウント)にて、事業周知を行いました。また、次の内容で市民講座を開催しました。 市民講座「知っておきたい! 備えておきたい! 相続手続き・遺言書の書き方」(3/30 参加者 94名)	市社協			○ (♥) 成年後見 制度の普 及・利用 促進